

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第4週（1月24日～1月30日）

## 今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

### 定点把握感染症

「RSウイルス感染症 増加の兆し」

第4週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,340例であり、前週比22%減であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、流行性角結膜炎の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.63、0.37、0.26、0.15、0.13である。

感染性胃腸炎は前週比25%減の1,109例で、南河内9.31、泉州8.30、堺市6.58、中河内6.00、大阪市北部5.86であった。

RSウイルス感染症は24%増の72例で、南河内1.19、大阪市北部1.00、大阪市南部0.53である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%減の51例で、大阪市南部0.79、泉州0.70、北河内0.31であった。

流行性角結膜炎は75%増の7例で、泉州・大阪市東部0.33、大阪市南部0.25である。

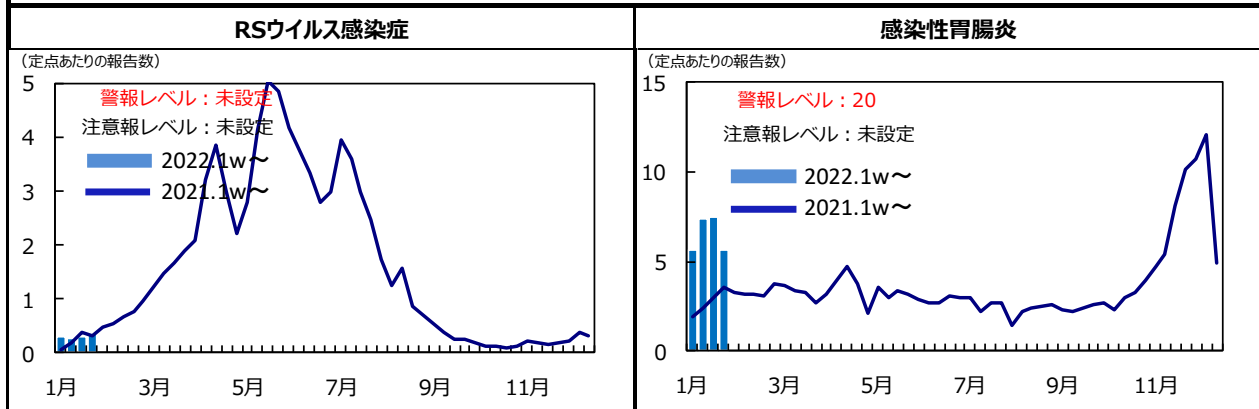


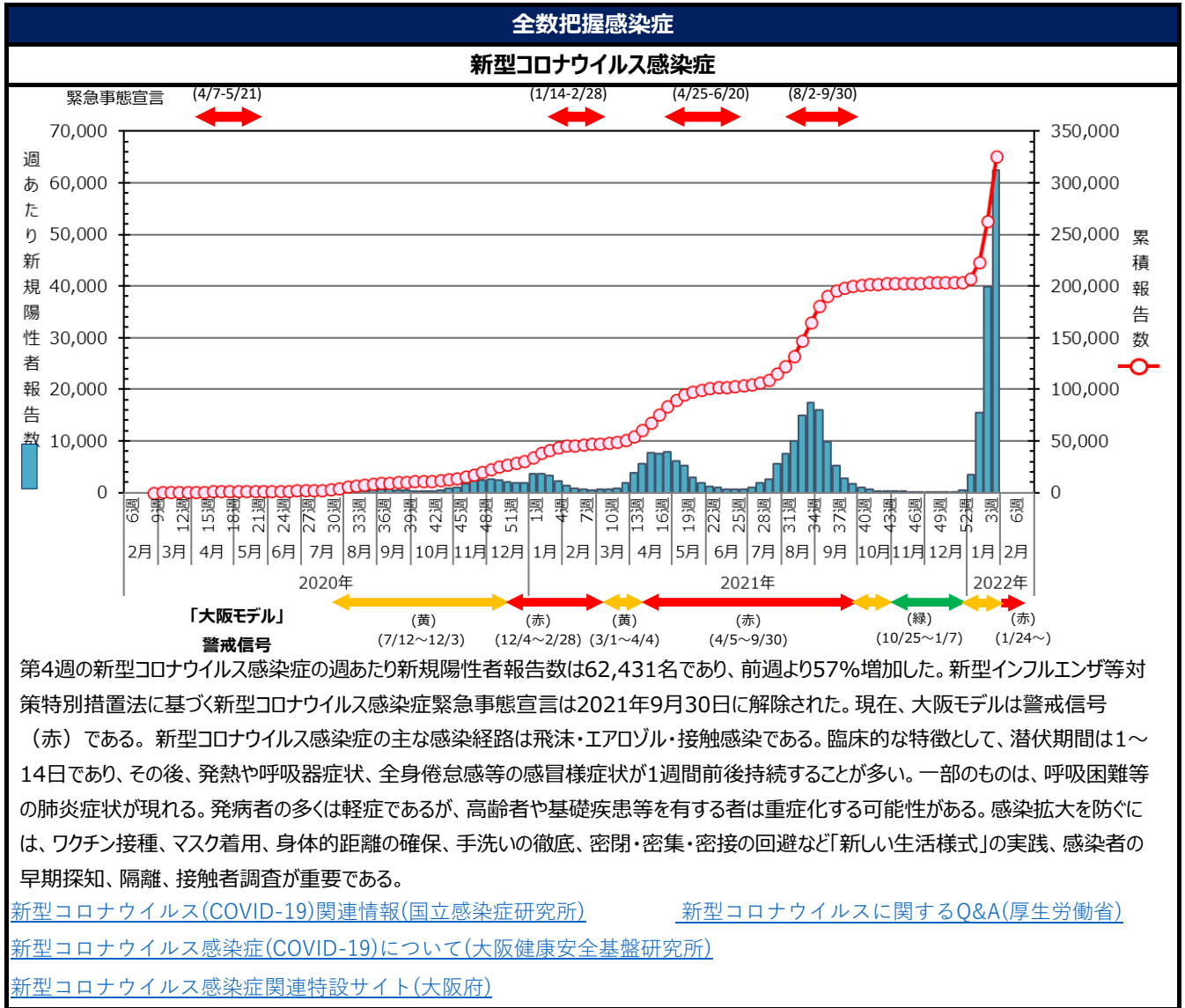
表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第4週1月24日～1月30日）

第4週の順位	第3週の順位	感染症	2022年 第4週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第4週の 定点あたり 報告数	2022年第4週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.63	25%減	3.57	2歳_17%
2	2	RSウイルス感染症	0.37	24%増	0.32	1歳_42%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	9%減	0.48	10-14歳_20%
4	4	突発性発しん	0.15	35%減	0.38	1歳_57%
5	8	流行性角結膜炎	0.13	75%増	0.17	20歳以上_100%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	43%減	0.01	20歳以上(4例)_100%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

## 第4週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）



**表2. 大阪府全数報告数（2022年 第4週1月24日～1月30日）**

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内累積報告数										
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数		
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1								1			8
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	1									1	10
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1										2
	侵襲性肺炎球菌感染症	1			1								6
	梅毒	11	1	1						1		8	66
	百日咳	1										1	4
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	62,431	2020年1月以降累計 325,114										
結核 (2021年11月分)	結核 新登録患者数：81名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 30名) (府内累積報告数 1,065名、内 肺・喀痰塗抹陽性 412名)												

(2022年2月1日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)